

【論文 (査読付)】

- 古代エジプト中王国時代クヌムイト墓出土のガラス質メダリオン
ービブロスとの交易関係と物質の解明を中心としてー 山花京子 1
「生活」史研究の方法と環境 A・コルバンの射程とデジタルアーカイブ 水島久光 25

【研究ノート】

- インドネシアのFDI型都市化にみる商業集積
西ジャワ州カラワン県の事例から 内藤 耕 39
南フランス・ガール県東部のロマネスク聖堂(1) 中川久嗣 61

【調査研究報告】

- 身近な信仰世界を見つめてーお稲荷さんの現在ー
文化社会学部「知のコスモス」展示会報告 杉本 浄 83

【翻訳】

- Charlotte M. Brame 著『ドラ・ソーン(*Dora Thorne*)』(翻訳・その18) 堀 啓子 102

【執筆者】

山花京子 東海大学文化社会学部アジア准教授
水島久光 東海大学文化社会学部広報メディア学科教授
内藤 耕 東海大学文化社会学部アジア学科教授
中川久嗣 東海大学文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科教授
杉本 浄 東海大学文化社会学部アジア准教授
堀 啓子 東海大学文化社会学部文芸創作学科教授

【編集後記】

東海大学文学部は、2018年度から文学部と文化社会学部の2学部に変更されました。その結果、アジア文明学科と歴史学科東洋史専攻はアジア学科へ、ヨーロッパ文明学科とアメリカ文明学科はヨーロッパ・アメリカ学科へと改編され、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科とともに文化社会学部を構成する学科となりました。

これに伴い、2018年度から新たに『東海大学紀要文化社会学部』を電子版で発行することになり、第1号は2019年2月、第2号は同年10月、第3号は2020年3月に発行とされました。第4号となった今号には、論文2件、研究ノート2件、調査研究報告1本、翻訳1件を掲載しました。

今号は、コロナ禍で研究活動が大きく制約を受ける中での発行となりました。困難な状況にも関わらず、ご投稿いただいた執筆者に感謝申し上げます。

東海大学文化社会学部紀要委員会

委員長 飯塚浩一 文化社会学部広報メディア学科教授、文化社会学部長

発行者 東海大学文化社会学部 飯塚浩一

〒259-1292 神奈川県平塚市北金目4-1-1

Tel 0463-58-1211 (代)

The Bulletin of the School of Cultural and Social Studies

Tokai University

Issue 4, October 2020

【Articles】

- A Vitreous Medallion from the Tomb of Khnumit, Middle Kingdom 1
- Its Byblite Connection and a Hypothesis of Manufacture -
YAMAHANA Kyoko
- “Life”History Research Methods and Environment 25
: Alain Corbin and Digital Archives
MIZUSHIMA Hisamitsu

【Research Notes】

- FDI Type Urbanization and Development of Commercial Areas in Indonesia 39
: Case of Karawang Regency, West Java
NAITO Tagayasu
- Les Églises Romanes dans le Département du Gard 61
; La Vallée de la Cèze.
NAKAGAWA Hisashi

【Research Report】

- Report on a Research Exhibition of Present Cults of Inari (a God of Harvests) 83
SUGIMOTO Kiyoshi

【Translation】

- A Translation of *Dora Thorne* by Charlotte M. Brame, 18 102
HORI Keiko

『東海大学紀要文化社会学部』投稿規程及び執筆要領

1. 投稿規程

1) 投稿資格について

- ・ 第1執筆者として投稿する資格があるのは、文化社会学部の専任教員及び特任教員とする。なお、学内外の研究者等が共同執筆になることは、これを妨げない。
- ・ 文化社会学部の専任教員及び特任教員以外の者が投稿を希望する場合は、投稿を認めるか否かを文化社会学部紀要委員会において審議し、文化社会学部長の承認を得て結果を本人へ連絡する。

2) 投稿原稿について

- ・ 未公開の学術論文、研究ノート、調査研究報告、その他（訳註、解題、翻刻、翻訳、教授法研究、等）の投稿を受け付ける。
- ・ 投稿を希望する者は、文化社会学部紀要委員会から周知された申込要領に沿って、申込〆切日までに投稿申込を行う。
- ・ 投稿申込を受領された者は、投稿〆切日までに、文化社会学部紀要委員会から周知された執筆要領及び提出要領にしたがって原稿を執筆・提出する。
- ・ 文化社会学部紀要委員会は、投稿原稿の採否・掲載ジャンル・掲載順等を決定し、必要に応じて修正等を依頼する。
- ・ 掲載が決まった原稿が多数の場合、一部の原稿の掲載を次号へ送ることがある。

3) 著作物の電子化と公開について

- ・ 掲載された著作物の著作権は、執筆者が有する。
- ・ 掲載された著作物の執筆者は、当該の著作物に関する複製及び公衆送信を文化社会学部紀要委員会に対して許諾したものとみなす。同委員会が複製及び公衆送信を第三者へ委託した場合も同様とする。
- ・ 掲載された著作物は、東海大学機関リポジトリを通じてコンピュータ・ネットワーク上に公開する。

4) その他

- ・ 抜刷の制作を希望する場合は、執筆者がその実費を負担する。
- ・ 掲載された論文等を自身の著作等に転載す

る場合は、文化社会学部紀要委員会へ連絡する。

2. 執筆要領

1) 形式

- ・ 使用言語は、原則として日本語または英語とする。（以下、使用言語が日本語の場合を想定して記載する。日本語以外の場合は、日本語での執筆要領に準じるものとし、詳細は文化社会学部紀要委員会と協議する。）
- ・ 原稿はテンプレートに入力し、電子データを提出する。
- ・ 原稿は縦組みでも横組みでも可とする。
- ・ 注は本文末尾または章ごとに掲げる。本文末尾に掲げる際には、番号は全体を通し番号とする。
- ・ 原稿には通し番号（ページ数）を付す。
- ・ 図及び表はテンプレートに沿って本文中に入力する。また、図及び表には見出し（例：表一、図一、など）を付す。
- ・ 論文及び研究ノートは、英文タイトル、執筆者名の英文表記、Abstract（単語数100語程度）をテンプレートの該当箇所に記載する。
※ 執筆者名の英文表記は、原則として IIZUKA Koichi の表記方法とする。

2) 分量

- ・ 原則として総字数は3万2000字以内（注を含める）とする。（総字数が極めて大きくなる場合には、扱いについて文化社会学部紀要委員会と協議する。）
- ・ 図及び表は総字数には含めない。

3) 体裁

- ・ 原稿の中で表記を統一する。
- ・ 原稿の中で代名詞、副詞、接続詞、助動詞、助詞の表記を統一する。
例) 敢て=あえて、未だ=いまだ、及び=および、のように、原稿の中で表記が分けないようにする。
- ・ 和文は全角、欧文は半角で記述する。

※本規程及び要領の制定・改訂・廃止は、文化社会学部教授会の承認をもって行う。

(2018年11月21日制定)